

短期大学生の就職活動に対する卒業生講話の影響

—保育、福祉系の職業を対象として—

太田裕子 幼児教育科

(2011年10月1日受理)

〔要約〕

本研究は、卒業生による講話が、短期大学2年次学生の就職活動に向けての意識に及ぼす影響について検討した。講話聴講前後の質問紙調査により得られた結果は次のようなものであった。

1. 卒業生による講話聴講前と比較して、聴講後に、幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士、介護福祉士という職業全てに対する学生の興味が向上した。
2. 卒業生による講話聴講前と比較して、聴講後に、学生が、幼稚園、保育所、介護施設を就職先として考える程度が向上した。
3. 聴講前には施設保育士に対する学生の興味が低かったにも関わらず、聴講後には他職業と同程度の興味が示された。学生が興味を持てるようになる機会の少ない施設保育士や介護福祉士の職業に関する情報を就職活動の開始以前に提供することが、それらの職業に対する興味が喚起し、学生の職業選択の幅が広がることに繋がるのではないかと考えられた。

I. 問題と目的

近年、わが国に見られる社会問題のひとつに少子化が挙げられ、18歳人口の減少が見られる半面、大学や短期大学への進学率は増加する傾向がある。平成20年度の18歳人口に対する大学・短期大学の入学者数の割合は55.3%¹⁾、専門学校の入学者、高専4年次在学者数を加えた場合の割合は76.8%である²⁾。このような高い進学率を背景に、受け入れる大学、短期大学では様々な支援を行うことが求められているが、大学や短期大学での4年間あるいは2年間の学生生活を経て就職に臨む学生の支援を行うことも、大学や短期大学側にとっては重要なこととなっている。中でも短期大学生の場合には、入学後約2年間で専門性を獲得し就職しなければならない時間的制約があることから、学校側の就職支援への関与がより強い³⁾という特性がある。また、安達⁴⁾は、「職業選択問題に対する介入として、早いうちから周囲のサポート体制を整え学生を職業へと方向づけ、十分な余裕を持って就職に備えることが出来るように働きかけを行うことが望まれる」と指摘した上で、期待されるサポート源が学校機関を母体とする公的なものである時は、仕事により自己の価値を実現させようという動機志向が高まるという結果を示した。これらのことから、短期大学に在籍する学生を社会に送り出すにあたり、短期大学による就職活動支援の必要性は今後もますます高まることが予想され、いかなる就職活動支援が、学生の就職活動、活動に向

けての意識等にどのような効果、影響を持つのかを把握することは意義のあるものとなろう。

短期大学による就職活動支援としては、求人情報の迅速丁寧な提供、就職活動に関する情報入手方法の指導、過去の就職試験内容を踏まえた就職試験受験に向けての指導、個人面談やカウンセリングによる就職活動の不安の軽減等々、様々なものが考えられる。また、下村・木村⁵⁾により、「OB/OG訪問によって得た情報」などを媒介した情報が大学生の就職活動では重視されていたという調査結果から、身近な人の情報媒体としての重要性が指摘され、下村・木村⁶⁾による大学生に対する調査では、「先輩」からは「就職活動のすすめ方について教えてくれた」といったサポートを多く受けていたという結果が得られていることから、短期大学の場合にも卒業生による情報提供が、学生の就職活動に何らかの望ましい影響を及ぼすことが期待できよう。

そこで、本研究では、短期大学で就職活動を開始する学生に対して実施する卒業生の講話が、どのような影響を持ち得るのかを検討する。対象となる短期大学は、幼稚園教諭、保育士の養成校であると同時に、卒業後に進学することができ、介護福祉士の資格を1年課程で取得できる専攻科を併設している。そのため、当該短期大学の学生はそれらの資格を活かした就職をする学生がほとんどであることから、同じような分野で就職した卒業生に就職活動に関する講話をしてもら

い、その影響を検討することとする。

II. 方法

1. 調査対象者

羽陽学園短期大学幼児教育科2年次学生である。事前調査、事後調査ともに回答し、かつ回答用紙に未記入の箇所のない108名を調査対象とした。

2. 実施時期・調査方法

事前調査、保育、福祉関係の職に就いている当該短期大学の卒業生による講話、事後調査を実施した。それぞれについて、以下に示す。

2-1. 事前調査について

平成23年6月に実施された。調査内容は、次のようなものであった。

7月9日(土)に資格を活かして就職した羽陽短期大学の先輩4名を講師に招いて講話をお聞きする予定です。それに先立ち、参加する皆さんにアンケートをお願いします。

選択肢のある質問については、当てはまるものをひとつ選び、自由記述の質問については、現時点で頭に浮かぶことをいくつでも書いて下さい。

1. 幼稚園教諭について

①幼稚園教諭の仕事に興味がありますか？

1. 全くない
2. あまりない
3. どちらでもない
4. 少しある
5. とてもある

②幼稚園を勤務先として考えていますか？

1. 全く考えていない
2. あまり考えていない
3. どちらでもない
4. 少し考えている
5. とても考えている

③講師の方(勤続4年目 短期大学卒 男性 幼稚園教諭)にお聞きしたいことは、どのようなことですか？

2. 保育所保育士について

①保育所保育士の仕事に興味がありますか？

1. 全くない
2. あまりない
3. どちらでもない
4. 少しある
5. とてもある

②保育所を勤務先として考えていますか？

1. 全く考えていない
2. あまり考えていない
3. どちらでもない
4. 少し考えている
5. とても考えている

③講師の方(勤続5年目 短期大学卒 女性 保育所保育士)にお聞きしたいことは、どのようなことですか？

3. 施設保育士について

①施設保育士の仕事に興味がありますか？

1. 全くない
2. あまりない
3. どちらでもない
4. 少しある
5. とてもある

②福祉施設を勤務先として考えていますか？

1. 全く考えていない
2. あまり考えていない
3. どちらでもない
4. 少し考えている
5. とても考えている

③講師の方(勤続3年目 専攻科修了 女性 施設保育士(県公務員))にお聞きしたいことは、どのようなことですか？

4. 介護福祉士について

①介護福祉士の仕事に興味がありますか？

1. 全くない
2. あまりない
3. どちらでもない
4. 少しある
5. とてもある

②介護施設を勤務先として考えていますか？

1. 全く考えていない
2. あまり考えていない
3. どちらでもない
4. 少し考えている
5. とても考えている

③講師の方(勤続4年目 専攻科修了 男性 介護福祉士)にお聞きしたいことは、どのようなことですか？

2-2. 卒業生による講話について

平成23年7月に実施された。講師は、幼稚園教諭(勤続4年目 短期大学卒 男性)、保育所保育士(勤続5年目 短期大学卒 女性)、施設保育士(勤続3年目 専攻科修了 女性)、介護福祉士(勤続4年目 専攻科修了 男性)、の4名で、いずれも、調査対象学生の所属する短期大学の卒業生(但し、施設保育士、介護福祉士の両名は、当該短期大学卒業後1年課程の専攻科福祉に進学、修了している)であった。

事前調査において2年次学生から挙げられた尋ねたい内容を、講話実施以前に各講師に伝えた上で講師依頼を行った。講話に要した時間は1人概ね20分であった。何れも、2年次学生から挙げられた尋ねたい内容を盛り込んだ講話となった。

2-3. 事後調査について

卒業生による講話を聴いた直後に実施された。調査内容は、次のようなものであった。

講師の方々の講話を聞いて、感じたこと、考えたことをまとめて下さい。

1. 幼稚園教諭について

- ①講話を聞いて、進路を考える上で参考になりましたか？
1. 全くならなかつた 2. あまりならなかつた
3. どちらでもない 4. 少しなつた
5. とてもなつた
- ②どのような点が参考になりましたか。あるいは、なぜ参考にならなかつたのですか。
- ③幼稚園教諭の仕事に興味がありますか？
1. 全くない 2. あまりない
3. どちらでもない 4. 少しある
5. とてもある
- ④幼稚園を勤務先として考えていますか？
1. 全く考えていない 2. あまり考えていない
3. どちらでもない 4. 少し考えている
5. とても考えている
- ⑤講話を聞いて印象に残ったことは、どのようなことですか？

以下同じ質問が、「2. 保育所保育士について」、「3. 施設保育士について」「4. 介護福祉士について」として提示された。

なお、事前調査における質問①、事後調査における③を職業興味評定質問、事前調査における質問②、事後調査における質問④を就職考慮評定質問、事後調査における質問①を進路参考評定質問、質問②を進路参考内容質問、⑤を印象内容質問と呼ぶことにする。

3. 分析方法

SPSS、Excel統計ソフトを用い集計、分析を行った。

4. 倫理的配慮

本研究の目的と方法の説明と共に、この調査は記名式だがあくまでも前後の統計的比較をするためであり、研究目的以外には結果を使用しないこと、本学紀要に記載される可能性があることを説明し同意を得た。

5. 仮説

対象者の所属する短期大学で取得可能な資格を活かして就職した卒業生の講話を聴くことは、就職活動を開始しようとする学生にとって、具体的な就職活動の進め方、それぞれの職業の仕事の内容、やりがいに触れる機会となる。従って調査の対象となる学生にとっては、それぞれの就職活動を考慮する際に参考にし得る情報を得られるとともに、それぞれの職業への興味、認識が深まること、またそれによりそれぞれの職業に進む意欲の向上が期待できる。従って、本研究における仮説は次のようなものとなる。

・仮説1 幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士、

介護福祉士のすべての職業について、事前調査における職業興味評定平均値より、事後調査における職業興味評定平均値の方が高くなるだろう。

・仮説2 幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士、介護福祉士のすべての職業について、事前調査における就職考慮評定平均値より、事後調査における就職考慮評定平均値の方が高くなるだろう。

III. 結果と考察

本研究において得られた結果を、以下に示す。尚、結果の統計処理にあたっては、5%水準をもって有意な差があるとみなした。

1. 事前調査について

1-1. 職業興味評定質問

事前調査における職業興味評定質問において5段階で求めた回答を、「とてもある」を5点、「少しある」を4点、「どちらでもない」を3点、「あまりない」を2点、「全くない」を1点とし、幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士、介護福祉士という職業それぞれについての職業興味評定平均値をTABLE 1に示す。

TABLE 1 事前調査における、職業興味評定平均値

職業	MEAN	SD
幼稚園教諭	3.38	1.10
保育所保育士	4.25	.88
施設保育士	2.45	.70
介護福祉士	3.23	1.05

Friedman検定 ($\chi^2(3)=133.19, p<.05$) の結果、職業興味評定質問における分布が各職業で同じであるという帰無仮説は棄却され、保育所保育士についての評定平均値が最も高く、対象者から、仕事として最も興味を持たれているということが示された。一方、施設保育士については、評定平均値が最も低く、学生の興味が最も低い職種であることが窺われる。

1-2. 就職考慮評定質問

事前調査における就職考慮評定質問において5段階で求めた回答を、「とても考えている」を5点、「少し考えている」を4点、「どちらでもない」を3点、「あまり考えていない」を2点、「全く考えていない」を1点とし、幼稚園、保育所、福祉施設、介護施設という就職先それぞれについての就職考慮評定平均値をTABLE 2に示す。

TABLE 2 事前調査における、就職考慮評定平均値

就職先	MEAN	SD
幼稚園	2.81	1.10
保育所	4.10	.93
福祉施設	2.10	.51
介護施設	2.68	.98

Friedman検定 ($\chi^2(3)=102.46, p<.05$) の結果、就職考慮評定質問における分布が一様分布であるという帰無仮説は棄却され、保育所についての就職考慮評定値が最も高く、対象者から、保育所が最も就職先として考えられているということが示された。幼稚園、福祉施設、介護施設については同様の評定値であることから、他のどの施設と比較しても、保育所を勤務先として考える傾向が特に強いことが窺える。

1-3. 講話希望内容質問

予定されている卒業生による講話で、取り上げて欲しいと思う内容として自由記述した内容は次の通りである。幼稚園教諭に対する内容をTABLE 3に、保育所保育士に対する内容をTABLE 4に、施設保育士に対する内容をTABLE 5に、介護福祉士に対する内容をTABLE 6に示す。

TABLE 3 事前調査における、幼稚園教諭に対する講話希望内容の自由記述内容と人数

自由記述内容	人数
a. 幼稚園教諭を職業に選んだ理由	39
b. 現在の職場に就職を決めた理由	34
c. 就職活動で大変だったこと	35
d. 就職試験の内容	33
e. 就職活動にあたり準備すべきこと	28
f. 就職活動を決めた時期	27
g. 就職未決定時期の焦りの有無とその対処方法	4
h. 幼稚園に就職して良かったと思うこと	27
i. 幼稚園に就職して大変なこと	21
j. 日案を書く頻度	20
k. ピアノを弾く頻度	19
l. 園児が休みの期間の仕事内容	11
m. 大まかな給与額	5
n. 男性幼稚園教諭としての特性	3
o. 就職後に活かされている学生時の勉学内容	8

TABLE 3において、職業や職場を決定した理由 (a, b)、就職活動に関する具体的な情報 (c~g) を知りたいとする学生が多いことが示された。またそれ以外にも、就職後の仕事内容に対する情報 (h~n) の提供も求められていることが分かる。更に、現在学んでいることが将来どのように活かされるのか (o) という点にも興味を示していることが窺える。

TABLE 4 事前調査における、保育所保育士に対する講話希望内容の自由記述内容と人数

自由記述内容	人数
a. 保育所保育士を職業に選んだ理由	35
b. 現在の職場に就職を決めた理由	32
c. 就職活動で大変だったこと	36
d. 就職試験の内容	33
e. 就職活動にあたり準備すべきこと	29
f. 就職活動を決めた時期	28
g. 保育所に就職して良かったと思うこと	23
h. 保育所に就職して大変なこと	23
i. 日案を書く頻度	13
j. ピアノを弾く頻度	11
k. 大まかな給与額	11
l. 園児の保護者との関わりで配慮していること	6
m. 休日の頻度	6
n. 園児との関わりで心がけていること	4
o. 就職1年目から担任をする場合の有無	3
p. 就職後に活かされている学生時の勉学内容	8

TABLE 4において、職業や職場を決定した理由 (a, b)、就職活動に関する具体的な情報 (c~f) を知りたいとする学生が多く、就職後の仕事内容に対する情報 (g~o) や現在学んでいることが将来どのように活かされるのか (p) という点にも興味を示されるという、TABLE 3と同様の傾向のあることが示された。また、TABLE 3と比較すると、保護者や園児への対応等 (l, n, o) の、業務内容についてより詳細な情報も求められていることが分かる。

TABLE 5 事前調査における、施設保育士に対する講話希望内容の自由記述内容と人数

自由記述内容	人数
a. 施設保育士を職業に選んだ理由	42
b. 現在の職場に就職を決めた理由	40
c. 就職活動を始めた時期	10
d. 就職活動で大変だったこと	8
e. 就職試験の内容	5
f. 就職活動にあたり準備すべきこと	2
g. 施設保育士としての現在の仕事内容	33
h. 施設に就職して良かったと思うこと	18
i. 施設に就職して大変なこと	18
j. 休日の頻度	12
k. 現在の仕事への印象の就職前後の相違の有無	10
l. 子どもとの関わりで心がけていること	5
m. 大まかな給与額	4
n. 就職後に活かされている学生時の勉学内容	5

TABLE 5において、職業や職場を決定した理由 (a, b)、就職活動に関する具体的な情報 (c~f) を知りたいとする学生が多く、就職後の仕事内容に対する情報 (g~m) や現在学んでいることが将来どのように活か

されるのか (n) ということにも興味が示されるといふ、TABLE 3、4と同様の傾向のあることが示された。一方で、現在の仕事内容や仕事への印象の就職前後での相違の有無 (g, k) など、仕事内容に対する具体的なイメージが不足しているが故の内容も見受けられる。

TABLE 6 事前調査における、介護福祉士に対する講話希望内容の自由記述内容と人数

自由記述内容	人数
a. 介護福祉士を職業に選んだ理由	39
b. 現在の職場に就職を決めた理由	12
c. 就職活動を決めた時期	6
d. 就職試験の内容	6
e. 就職活動にあたり準備すべきこと	1
f. 介護福祉士としての現在の仕事内容	24
g. 施設に就職して大変なこと	23
h. 施設に就職して良かったと思うこと	20
i. 休日の頻度	10
j. 老人との関わりで心がけていること	7
k. 腰痛などの身体的負担の有無	5
l. 大まかな給与額	5
m. 就職後に活かされている学生時の勉強内容	2

TABLE 6 においても、TABLE 3、4、5と同様の傾向が示された。また、老人との関わりにおける心がけ、身体的負担の有無 (j, k) など、介護福祉士の業務内容に関連する情報が求められる一方で、TABLE 4と同様に、現在の仕事内容 (f) といった、業務内容に対する具体的なイメージが不足しているが故の内容も見受けられる。

2. 事後調査について

2-1. 進路参考評定質問

事後調査における、幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士、介護福祉士によるそれぞれの講話についての進路参考評定平均値をTABLE 7に示す。

TABLE 7 事後調査における、進路参考評定平均値

講師の職業	MEAN	SD
幼稚園教諭	4.58	.61
保育所保育士	4.10	.61
施設保育士	4.50	.63
介護福祉士	4.50	.66

TABLE 7 において幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士、介護福祉士による講話の何れにおいても進路参考評定平均値は4以上であり、また、Friedman検定 ($\chi^2(3)=6.72, p=.08, n.s.$) の結果、進路参考評定質問における分布が一様分布であるという帰無仮説は棄却されなかったことから、幼稚園教諭、保育所保

育士、施設保育士、介護福祉士による講話の何れに対しても同様に、自分の進路を考慮するにあたり参考になると高く評定されたことが示された。

2-2. 進路参考内容質問

卒業生による講話を聴き、進路を考える上で参考になったとして自由記述した内容は次の通りである。幼稚園教諭による講話に対する内容をTABLE 8に、保育所保育士による講話に対する内容をTABLE 9に、施設保育士による講話に対する内容をTABLE 10に、介護福祉士による講話に対する内容をTABLE 11に示す。

TABLE 8 幼稚園教諭による講話に対する進路参考内容質問の自由記述内容と人数

自由記述内容	人数
a. 幼稚園教諭という職業の魅力	31
b. 就職決定の際の実習のもつ意味の大きさ	17
c. 就職試験の内容	10
d. 自分の得意分野を持つ、広げることの重要性	8
e. 苦手分野克服は就職後でも可能だという考え方	5
f. 障害児との関わりの有無とその重要性	3
g. 就職後に活かされている学生時の経験内容	1

TABLE 9 保育所保育士による講話に対する進路参考内容質問の自由記述内容と人数

自由記述内容	人数
a. 保育所保育士という職業の魅力	33
b. 就職決定の際の実習のもつ意味の大きさ	17
c. 就職試験の内容	10
d. 就職試験に臨む際の心構え	8
e. 保育所保育士業務における手遊びの重要性	5
f. 保護者との関わり的重要性	3

TABLE 10 施設保育士による講話に対する進路参考内容質問の自由記述内容と人数

自由記述内容	人数
a. 施設保育士という職業の魅力	28
b. 施設保育士の業務内容	17
c. 施設保育士の勤務形態 (休日、遅番・早番等)	10
d. 就職試験の内容	8
e. 関わる子どもとの信頼関係構築の重要性	4

TABLE 11 介護福祉士による講話に対する進路参考内容質問の自由記述内容と人数

自由記述内容	人数
a. 介護福祉士という職業の魅力	31
b. 介護福祉士の業務内容	17
c. 介護福祉士の勤務形態 (休日、遅番・早番等)	10
d. 就職試験の内容	8
e. 介護福祉士という職業の重要性	5
f. 様々な人と連携をとることの重要性	2
g. 就職後に活かされている学生時の経験内容	2

TABLE 8、9、10、11において「それぞれの職業の魅力」を挙げた学生の数がもっとも多い。また、「就職試験の内容」も挙げられており、その2点は何れの講話においても、進路を考慮する上で参考になると学生に受け止められていることが示された。更に、「就職決定の際の実習の持つ意味の大きさ」が同様に挙げられていることから、TABLE 8、9における共通性が認められ、「業務内容」、「勤務形態」が同様に挙げられていることから、TABLE10、11における共通性が認められる。また、前述の内容の他に、TABLE 8、9、10、11において、「自分の得意分野を持つ、広げることの重要性」、「保護者との関わりの重要性」、「就職後に活かされている学生時の経験内容」等々、就職活動に関する具体的な情報とは異なる内容も見受けられる。

2-3. 職業興味評定質問

事後調査における、職業興味評定平均値をTABLE 12に示す。

TABLE12において幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士、介護福祉士という職種のものについても平均評定値は4以上であり、また、Friedman検定 ($\chi^2(3)=7.57, n. s.$) の結果、職業興味評定質問における分布が各講話で同じであるという帰無仮説は棄却されなかったことから、幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士、介護福祉士による講話を聴いた後に、それぞれの職業に興味があると高く評定されたことが示された。また、事前調査と事後調査の職業興味平均評定値について t 検定を実施した結果、何れの職業についても有意差が認められ、仮説1は支持された。このことから、卒業生による講話の前後で、それぞれの職業に対して、

より高い興味を持つようになったといえよう。

2-4. 就職考慮評定質問

事後調査における、就職考慮評定平均値をTABLE13に示す。

TABLE13において、幼稚園、保育所、福祉施設、介護施設についての就職考慮評定平均値には違いが見られる。また、Friedman検定 ($\chi^2(3)=181.573, p<.01$) の結果、就職考慮評定質問における分布が各職種で同じであるという帰無仮説は棄却されたことから、幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士、介護福祉士による講話を聴いた後に、就職先としての捉え方には幼稚園、保育所、福祉施設、介護施設には違いがあり、就職先として最も考えられているのは保育所で最も考えられていないのが福祉施設であるという傾向は、事前調査と変わらないということが示された。その一方で、事前調査と事後調査の就職考慮評定平均値について t 検定を実施した結果、福祉施設以外の幼稚園、保育所、介護施設について有意差が認められ、仮説2は一部支持された。それらの施設が、卒業生の講話を聴く前よりも聴いた後に、就職先としてより考えられるようになったことが示された。

2-5. 印象内容質問

卒業生による講話を聴き、印象に残ったこととして自由記述した内容は次の通りである。幼稚園教諭による講話に対する内容をTABLE14に、保育所保育士による講話に対する内容をTABLE15に、施設保育士による講話に対する内容をTABLE16に、介護福祉士による講話に対する内容をTABLE17に示す。

TABLE12 事前・事後調査における、職業興味評定平均値

職業	事前調査		事後調査		t 値
	MEAN	SD	MEAN	SD	
幼稚園教諭	3.38	1.10	4.47	.72	10.42**
保育所保育士	4.25	.88	4.55	.65	6.19**
施設保育士	2.45	.70	4.37	.65	21.69**
介護福祉士	3.23	1.05	4.46	.68	10.24**

** $p<.01$

TABLE13 事前・事後調査における、就職考慮評定平均値

就職先	事前調査		事後調査		t 値
	MEAN	SD	MEAN	SD	
幼稚園	2.81	1.10	3.33	.93	9.10**
保育所	4.10	.93	4.27	.86	2.95**
福祉施設	2.10	.51	2.16	.50	1.92
介護施設	2.68	.98	3.12	.92	8.63**

** $p<.01$

TABLE14 幼稚園教諭による講話に対する印象内容質問の自由記述内容と人数

自由記述内容	人数
a. 幼稚園教諭という職業の魅力	22
b. 就職決定の際の実習のもつ意味の大きさ	17
c. 自分の得意分野を持つ、広げることの重要性	10
d. 苦手分野克服は就職後でも可能だという考え方	8
e. 障害児との関わりの有無とその重要性	5
f. 就職後に活かされている学生時の経験内容	1

TABLE15 保育所保育士による講話に対する印象内容質問の自由記述内容と人数

自由記述内容	人数
a. 保育所保育士という職業の魅力	24
b. 就職試験に臨む際の心構え	17
c. 勤務を継続することの重要性	10
d. 就職後に活かされている学生時の経験内容	2

TABLE16 施設保育士による講話に対する印象内容質問の自由記述内容と人数

自由記述内容	人数
a. 施設保育士という職業の魅力	18
b. 関わる子どもとの信頼関係構築の重要性	17
c. 就職後に活かされている学生時の経験内容	1

TABLE17 介護福祉士による講話に対する印象内容質問の自由記述内容と人数

自由記述内容	人数
a. 介護福祉士という職業の魅力	20
b. 介護福祉士という職業の重要性	17
c. 様々な人と連携をとることの重要性	10
d. 就職後に活かされている学生時の経験内容	8
e. 様々な角度から物事をとらえる考え方の必要性	2

TABLE14、15、16、17において「それぞれの職業の魅力」を挙げた学生の数が最も多く、「就職後に活かされている学生時の経験内容」も共通して挙げられている。また、TABLE14における「就職決定の際の実習のもつ意味の大きさ」、TABLE15における「就職試験に臨む際の心構え」以外は就職活動に集約された内容ではなく、職業人、社会人として重要となる物事、様々な事物への対処法、考え方、といったより広い範囲に適用されるような内容が挙げられている点も共通しているといえよう。

IV. 討論

本研究により得られた結果から考えられることを以下に述べる。

仮説1が支持されたことにより、幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士、介護福祉士である卒業生の講話が、就職活動を控えた学生のそれぞれの職業に対する興味を向上させる効果を持ち得たと考えられる。ま

た、TABLE7の結果から、講師の職業に関わらず各講師による講話が同様に、就職活動を進めていく上で学生の参考になる、役に立つという役割を持ち得たともいえよう。参考になったこととして共通して挙げられた内容は、それぞれの職業の魅力、就職試験の内容、それぞれの職業で重要になると思われる事項などであった。事前の要望としては多岐にわたる内容が挙げられており、卒業生の講話はその要望に沿った講話となったが、その講話を聴いた後に参考になったこととしてそれらの内容が共通して挙げられていることから、それらの職業への興味を喚起する情報として、前述のような情報を提供することの重要性が示唆されたともいえよう。また、更に、TABLE14～17において各講話を聴いて印象に残ったこととして挙げられたものを、TABLE8～11で挙げられたものと比較すると、就職活動に直接関係する内容よりも、就職後の社会生活における物事の考え方や日々の学生生活の重要性など、より視野の広い内容となっていることが分かる。就職活動の支援となることを期待して設定された講話が、就職活動そのものへの考慮のみならず、今後の社会生活における指針へ思いを馳せる内容を印象付ける効果を持ち得たという点で、事前の予想の範囲を超えた役割を持つものであったといえよう。

＜職業の種類による学生の反応の違いについて＞

幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士、介護福祉士といった職業に対する対象者の反応について検討する。TABLE1より、卒業生による講話を聴く前の調査において職業興味評定平均値がもっとも低い職業は、施設保育士であった。TABLE2の結果からは、福祉施設が就職先として考えられている程度がもっとも低く、興味も就職する意欲も低いという状況が窺える。その理由としては、施設保育士に対する事前の知識が不足していることが考えられる。保育士資格取得のために実施する実習では、保育所における実習は全員が実施する半面、施設実習は、例えば知的障害者更生施設、児童養護施設等をはじめとする複数の施設の中の1種類の施設での実習となるため、他の種類の福祉施設については現場の雰囲気を知ることが出来ないままになってしまうこと、保育士として勤務できる施設数は保育所と比較すると少ないため就職できる機会も就職した知人等も少なく、また就職先として考えること自体も少なく、そのため情報に触れたり自らが情報を求めて活動することも少なくなってしまうこと、等が考えられる。その傾向は、TABLE5において、講話を聴く前に知りたい情報として、幼稚園教諭や保育所保育士には求められなかった「現在の仕事の内容」

が挙げられていることから認められる。しかし、TABLE 7において施設保育士の講話が、進路を考える上で参考になったとする評定平均値は、幼稚園教諭、保育所保育士、介護福祉士の講話に対する評定平均値と同程度であり、更に、卒業生の講話を聴いた後の施設保育士という職業に対する興味を示す評定平均値は、事前の評定平均値よりも高くなっていることから、保育士の養成課程において、施設保育士として勤務する職場の知識やその仕事の内容、魅力等について、在学生に意識的に情報提供を行うことが、施設保育士という職業へも関心を向けさせ、職業選択の幅をより広げることにつながる可能性があると考えられる。TABLE13において、就職先として考えられる程度は卒業生の講話を聴いた後も聞く前と比較して上昇している訳ではないという結果も示されており、単に当該職業についての情報提供の増加が、施設保育士という職業の選択に直結するとは必ずしもいえないものの、情報提供の機会を増加させることは職業選択の幅を広げるという点で意味のあることだと考える。また、同様の傾向は、介護福祉士にも見られる。対象者の所属する短期大学では、介護福祉士の資格取得のためには、短期大学を卒業後1年課程の専攻科に入学してからの取得となるため、2年課程のカリキュラムにおいて介護福祉士の仕事内容等についての情報を多数の学生を対象として発信する機会が限られている。施設保育士についての情報と同様に、そのような情報を進路決定以前に学生に提供することで、学生の進路決定の選択の幅が広がることが期待できよう。就職活動の開始時期のみならず、それ以前の時期にも、施設保育士や介護福祉士に関する職業、職場についての情報を提示することの検討は、一考に値するものといえよう。

V. まとめ

卒業生による講話が、短期大学2年次学生の就職活動に向けての意識に及ぼす影響について検討した結果、

幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士、介護福祉士である卒業生による講話聴講前と比較して、聴講後に、それらの職業全てに対する学生の興味が向上し、幼稚園、保育所、介護施設を就職先として考える程度が向上した。また、聴講前には施設保育士に対する学生の興味が低かったにも関わらず、聴講後には他職業と同程度の興味が示され、対象者が興味を持てるようになる機会の少ない施設保育士や介護福祉士の職業に関する情報を就職活動の開始以前に提供することが、それらの職業に対する興味を喚起し、学生の職業選択の幅が広がることに繋がるのではないかと考えられた。就職支援に対するニーズは今後ますます高まることが予想されるため、本研究により得られた知見を今後の就職指導に活かしていきたいと考える。

引用文献

- 1) 平成20年度 学校基本調査速報 文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/0872901/003/sanzu.pdf
- 2) 平成20年度 学校基本調査速報 文部科学省
http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/0872901/003/sanzu10.pdf
- 3) 中島由果, 無藤隆:「女子学生における目標達成プロセスとしての就職活動」教育心理学研究 No. 55, 2007, 403-413
- 4) 安達智子:「女子学生の就職準備を規定する要因ーサポートと就業動機による影響プロセスー」日本教育心理学会第45回総会発表論文集 2003, 144
- 5) 下村英雄, 木村周:「大学生の就職活動における就職関連情報と就職未決定」進路指導研究 No. 15, 1994, 11-19
- 6) 下村英雄, 木村周:「大学生の就職活動における就職活動ストレスとソーシャルサポート」進路指導研究 No. 18, 1997, 9-16

SUMMARY

Yuko OHTA :

The Influences of the Graduates' Lecture on the Job Hunting of the Junior College Students
– The Case of the Jobs Concerned with the Childcare and the Welfare –

The purpose of this study was to investigate the influences of the graduates' lecture on the consciousness about the job hunting of the junior college students.

The subjects completed the questionnaire before lecture (pre-investigation) and after that (post-investigation). The results were summarized as follows:

- (1) The interests in the all above-mentioned jobs in the post-investigation were more than those in the pre-investigation.
- (2) The degree of the thinking the kindergarten, the day care center, and the nursery home as a workshop in the post-investigation was higher than that in the pre-investigation.
- (3) The degree of the interest in the child-caretaker of the welfare facility was equal to that in other occupations in the post-investigation though it was low in the pre-investigation.

(Uyo Gakuen College)